

平成 17 年度 熱力学 B 追試験問題

科目名 熱力学 B	教員名 三好 明	10 月 31 日 (月) 1 限 試験時間 90 分 (9:00~10:30)	
指定クラス: 1 年 理1 1 年 理2・3	解答用紙 両面 1 枚	計算用紙 1 枚	持込不可
質問は受け付けない。問題に誤りがあると思う場合は、それを指摘・修正した上で解答せよ。			

以下の問 (Q1–Q3) に答えよ。必要に応じて右の資料を参照せよ。

Q1. 標準圧力 p° ($\equiv 10^5 \text{ Pa}$) 下の氷の融点を T_f とし、この温度における氷の標準融解エンタルピーを $\Delta_{\text{fus}}H^\circ(T_f)$ [$\cong 6.0 \text{ kJ mol}^{-1}$] とする。

- (1) 温度 T_f における氷の標準融解エントロピー $\Delta_{\text{fus}}S^\circ(T_f)$ を $\Delta_{\text{fus}}H^\circ(T_f)$ と T_f で表せ。
- (2) 水の三重点の圧力を p_3 ($\cong 6 \times 10^2 \text{ Pa}$) とし、氷、水の密度 (単位は g cm^{-3} とする) をそれぞれ ρ_s [$= 0.9168$], ρ_L [$= 0.9998$] とする。密度および標準融解エントロピーの温度・圧力による変化は無視できるとする。このとき、水の三重点の温度 T_3 を T_f , $\Delta_{\text{fus}}S^\circ(T_f)$, p° , p_3 , ρ_s , ρ_L , および水の分子量 M ($\cong 18.02 \text{ g mol}^{-1}$) を用いて表せ。
- (3) T_3 は T_f より高いか、低いかを答えよ。

Q2. 外界と物質・熱の出入りがなく、膨張仕事のみが可能な系 (温度, 圧力, 体積をそれぞれ T, p, V とする) におけるエネルギー保存則, $C_V dT = -p_{\text{ex}} dV$ (C_V は定容熱容量, p_{ex} は外界の圧力), から完全 (理想) 気体の断熱可逆変化に関する以下の関係式を, 導出過程を示して導け。ただし T_i, p_i, V_i は変化の初期状態, T_f, p_f, V_f は終状態の温度, 圧力, 体積である。

- (1) T_i, V_i と T_f, V_f の関係を表す式
- (2) p_i, V_i と p_f, V_f の関係を表す式
- (3) T_i, p_i と T_f, p_f の関係を表す式

Q3. 完全 (理想) 気体が等温 T_0 で可逆な変化によって体積 V_i から V_f に膨張するとする。初期状態の圧力は p_i である。このとき, 以下を求めよ。結果は T_0, V_i, V_f, p_i のみを含む形で答えよ。

- (1) 系が外界にする仕事
- (2) 系と外界, それぞれのエントロピー変化
- (3) 系のギブスエネルギー変化

[資料]

[1. 物理定数・単位の換算・原子量]

[数学・物理定数]

- ・ $\pi = 3.1415926536$ (円周率)
- ・ $R = 8.314472 \text{ J K}^{-1} \text{ mol}^{-1}$ (気体定数)
- ・ $N_A = 6.02214199 \times 10^{23} \text{ mol}^{-1}$ (アボガドロ定数)
- ・ $k = R / N_A$ (ボルツマン定数)
- ・ $g \equiv 9.80665 \text{ m s}^{-2}$ (自由落下の標準加速度)

[単位の換算]

- ・ $0 \text{ }^\circ\text{C} \equiv 273.15 \text{ K}$ ・ $1 \text{ cal} \equiv 4.184 \text{ J}$
- ・ $1 \text{ bar} \equiv 10^5 \text{ Pa}$ ・ $1 \text{ atm} \equiv 101325 \text{ Pa}$

[原子量]

- H: 1.01 C: 12.01 N: 14.01 O: 16.00 F: 19.00
 Na: 22.99 S: 32.07 Cl: 35.45 Fe: 55.85 Sn: 118.7

[2. 重要な式]

- ・ ${}^{(\text{MA})}U_m(T) = {}^{(\text{MA})}U_m(0) + \frac{3}{2}RT$
- ・ ${}^{(\text{NLM})}U_m(T) \sim {}^{(\text{NLM})}U_m(0) + 3RT$
- ・ $dU = dq + dw$ (エネルギー保存則)
- ・ $C_V = \left(\frac{\partial U}{\partial T}\right)_V$, $C_p = \left(\frac{\partial H}{\partial T}\right)_p$ (C_V, C_p 定義)
- ・ $H = U + pV$ (H 定義)
- ・ $A = U - TS$ (A 定義)
- ・ $G = H - TS$ (G 定義)
- ・ $C_{p,m} - C_{V,m} = R$
- ・ $TV^{\gamma-1} = \text{const.}$
- ・ $\gamma = \frac{C_p}{C_V}$ (γ 定義)
- ・ $\left(\frac{\partial H}{\partial T}\right)_V = \mu_T \left(\frac{\partial p}{\partial T}\right)_V + C_p$
- ・ $\mu_T = \left(\frac{\partial H}{\partial p}\right)_T$, $\mu = \left(\frac{\partial T}{\partial p}\right)_H = -\frac{\mu_T}{C_p}$ (μ_T, μ 定義)
- ・ $dS = \frac{dq_{\text{rev}}}{T}$ (S 定義)
- ・ $dS \geq \frac{dq}{T}$ (クラウジウスの不等式)
- ・ $\Delta_{\text{trs}}S = \frac{\Delta_{\text{trs}}H}{T_{\text{trs}}}$
- ・ $dU = TdS - pdV$ (基本式)
- ・ $\left(\frac{\partial U}{\partial S}\right)_V = T$, $\left(\frac{\partial U}{\partial V}\right)_S = -p$
- ・ $dH = TdS + Vdp$
- ・ $dG = Vdp - SdT$
- ・ $\left(\frac{\partial G}{\partial p}\right)_T = V$, $\left(\frac{\partial G}{\partial T}\right)_p = -S$
- ・ $\left[\frac{\partial(G/T)}{\partial T}\right]_p = -\frac{H}{T^2}$ (ギブス-ヘルムホルツの式)
- ・ $\mu = \left(\frac{\partial G}{\partial n}\right)_{T,p}$ (μ 定義)
- ・ $\mu = \mu^\circ + RT \ln\left(\frac{p}{p^\circ}\right)$
- ・ $\frac{dp}{dT} = \frac{\Delta_{\text{trs}}S}{\Delta_{\text{trs}}V}$ (クラペイロンの式)
- ・ $\frac{d \ln p}{dT} = \frac{\Delta_{\text{vap}}H}{RT^2}$ (クラウジウス-クラペイロン式)
- ・ $V_i = \left(\frac{\partial V}{\partial n_i}\right)_{p,T,n_{j \neq i}}$ (V_i 定義)
- ・ $dV = V_A dn_A + V_B dn_B$, $V = n_A V_A + n_B V_B$
- ・ $\mu_i = \left(\frac{\partial G}{\partial n_i}\right)_{p,T,n_{j \neq i}}$ (μ_i 定義)
- ・ $G = n_A \mu_A + n_B \mu_B$
- ・ $n_A d\mu_A + n_B d\mu_B = 0$
- ・ $\sum_i n_i d\mu_i = 0$ (ギブス-デュエム式)
- ・ $\Delta_{\text{mix}}G = nRT(x_A \ln x_A + x_B \ln x_B)$
- ・ $\Delta_{\text{mix}}S = -nR(x_A \ln x_A + x_B \ln x_B)$
- ・ $\Delta_r G = \mu_B - \mu_A$
- ・ $RT \ln K = -\Delta_r G^\circ$
- ・ $K = \left(\frac{p_X p_Y \dots}{p^\circ p^\circ \dots}\right)_e$ (質量作用の法則)